

「南種子町立荃南小学校の棒踊り・ひょうたん踊り伝承活動の取組」

1 学校名

南種子町立荃南小学校

2 学年・人数

- (1) 棒踊り
3～6年生（計34人）
- (2) ひょうたん踊り
1，2年生（計10人）

3 日時・場所

- (1) 練習の日時・場所
令和2年9月 荃南小学校校庭
- (2) 発表の日時・場所
令和2年9月20日（日） 荃南小学校第64回秋季大運動会
（隔年）宝満神社願成就祭での奉納（棒踊り）…本年度はコロナ禍で自粛

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

- (1) 名称
棒踊り（ぼうおどり），ひょうたん踊り（ひょうたんおどり）

- (2) 由来

- ア 棒踊り

島津家が富国強兵の策の一環として，中国の棒術の流れをくんだ兵法の体型におりまぜて演じさせ，青年たちの団結と忠誠の証としたことが始まりとされる。本校のある荃永には，明治以後，耕地整理などで，薩摩から来た労働者によって伝えられた芸能であると伝承されている。

- イ ひょうたん踊り

「金山節」とも呼ばれる。荃永の民俗芸能がいつから踊られるようになったか明確な根拠はないが，「旧藩時代に歌舞の才をもつ者が，他集落の踊りから暗示を受け，踊りを案出した」と伝える文献もある。

- (3) 構成等

- ア 棒踊り

児童数によって構成は変わるが，令和2年度は，六人一組が六組に分かれて踊った。うち四人が六尺棒，二人が鎌を持つ。六尺棒を担いだ勇ましい入場が終わると棒突きが始まり，前後に移動しながら，六尺棒を振り回して踊る。そのあと，棒の激しい打ち合いのある本踊りが始まる。本踊りを3回繰り返し，棒踊りは終了する。

- イ ひょうたん踊り

竹崎集落で踊りを継承する保護者が太鼓，入れ鼓，鉦がそれぞれ一人ずつ担当し，ひょっとこ，おかめ，その他色々な面をつけた踊り子を低学年児童が担当する。踊り子は全員，ひょっとこなどの面をかぶり，法被姿に黒帯を締め，日本タオルで頬被り，腰に長い紐をつけた飾り付けのひょうたんを付け，黒足袋を履く。金山節に合わせて反時計方向にゆっくり踊りながら移動する。

5 保存会や地域との連携の具体

(1) 棒踊り

茎永上ノ町に伝わる民俗芸能で、以前は茎南中学校生徒が踊っていた。中学校の閉校に伴い、茎南小学校の3～6年生の児童が踊りを受け継いだ。地域の「棒踊り保存会」が全面的に支援し、運動会前の放課後練習の指導にも当たっている。

(2) ひょうたん踊り

茎永下ノ町に伝わる民俗芸能で、学校では1～2年生の児童が踊りを受け継ぐ。下ノ町竹崎集落の保護者が中心となって指導に当たり、踊りをお披露目する運動会は老年の先輩方が唄い手として参加する。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら茎永の民俗芸能を継承していくために、学校では、秋季大運動会の一大種目として位置付けている。また、地域では、地元の宝満神社願成就祭で、児童による棒踊りを隔年で奉納している。民俗芸能の指導に当たっては、棒踊り保存会や保護者が学校の教育現場においても全面的に支援している。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



棒踊り保存会による放課後指導



秋季大運動会での発表

8 参加児童児童・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【児童】

- ・ ひさしぶりに着物を着て、すごく暑かったけど嬉しかったです。
- ・ 「エイエイ」のところを地域の方に教えてもらい、できたのでよかった。

【教職員】

- ・ 民俗芸能を児童に継承する活動を通して、地元愛や児童の自主性を育もうとする地域性が強く感じられる。今後も、地域や保護者と連携して、子供たちの教育に役立てていきたい。

【保存会から】

- ・ 中学校が閉校となり、小学生が踊るようになってから数年たった。棒踊りは小学生には難しいが、子供たちは毎年よく練習し、先生方も協力的だった。今年は、コロナ禍で宝満神社願成就祭での奉納ができず、残念だった。せっかく長い期間練習するので、もう少し発表の場が増えるといいと思う。

【地域の方から】

- ・ 私たちも踊った棒踊りを子供たちが立派に踊っているのを見ることができて嬉しかったです。子供たちが大きくなって、次の世代に伝えていくことができればいいと思います。